

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2022年12月29日(29.12.2022)



(10) 国際公開番号

WO 2022/270036 A1

- (51) 国際特許分類:
E06B 1/56 (2006.01) *E06B 1/62* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2022/010474
- (22) 国際出願日: 2022年3月10日(10.03.2022)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2021-102128 2021年6月21日(21.06.2021) JP
- (71) 出願人: スガツネ工業株式会社(SUGATSUNE KOGYO CO., LTD.) [JP/JP]; 〒1018633 東京都千代田区東神田1丁目8番11号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 柏熊 一彰(KASHIWAGUMA Kazuaki); 〒1018633 東京都千代田区東神田1丁目8番11号 スガツネ工業株式会社内 Tokyo (JP). 小川 幸彦(OGAWA Yukihiko); 〒1018633

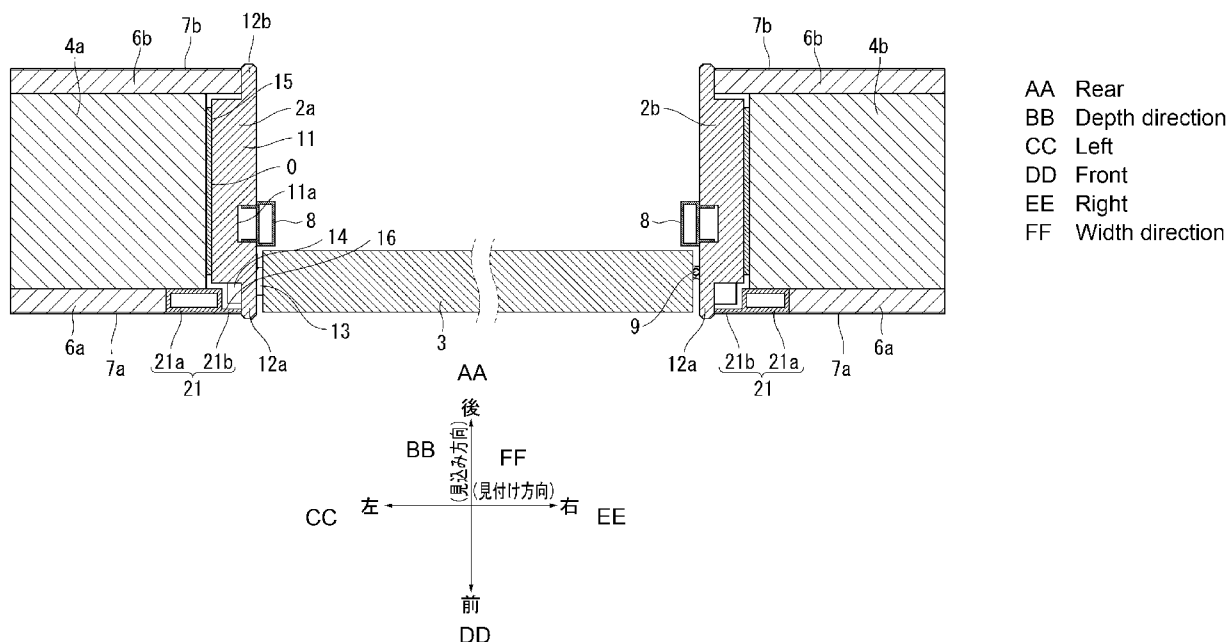
東京都千代田区東神田1丁目8番11号 スガツネ工業株式会社内 Tokyo (JP). 岩田 直也(IWATA Naoya); 〒1018633 東京都千代田区東神田1丁目8番11号 スガツネ工業株式会社内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 塩島 利之 (SHIOJIMA, Toshiyuki); 〒1010025 東京都千代田区神田佐久間町二丁目12番地 フローラル秋葉原7階 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,

(54) Title: WIDTH SPACER AND LAYOUT STRUCTURE OF WIDTH SPACER

(54) 発明の名称: 見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造



(57) Abstract: The purpose of the present invention is to provide a width spacer that enables a wall to be easily constructed in a frame having a thin width section. A width spacer (21) is disposed along a width section (12a) of a frame (2a) and comprises: a body section (21a) attached to a framework (4a) to which the frame (2a) is attached; and an extending part (21b) extending from the body section (21a) to the width portion (12a) of the frame (2a). A notch (16) is formed in a rear surface side of the extending part (21b).

WO 2022/270036 A1

QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,
US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第21条(3))

(57) 要約: 見付け部が薄い枠に壁を容易に施工できるようにする見付けスペーサを提供することを目的とする。枠(2a)の見付け部(12a)に沿って配置される見付けスペーサ(21)であって、枠(2a)が取り付けられる躯体(4a)に取り付けられる本体部(21a)と、本体部(21a)から枠(2a)の見付け部(12a)まで延びる延設部(21b)と、を備える。延設部(21b)の後面側には、切欠き(16)が形成される。

明 細 書

発明の名称：見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造

技術分野

[0001] 本発明は、枠の見付け部に沿って配置される見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造に関する。

背景技術

[0002] 建物の開口部には枠が取り付けられ、枠には開き戸、引戸等の戸が開閉自在に取り付けられる。近年、枠の見付け面（正面からみえる枠の前面）を薄くして、意匠的にシンプルでシャープな印象を与えるようにした枠が開発されている（特許文献1参照）。

[0003] 図18に示すように、この見付け面を薄くした枠51では、枠51の前端部51a（見付け部）を枠本体51bよりも薄くして前方に突出させている。そして、突出させた見付け部51aに石膏ボード等の壁板52を突き当て、見付け部51aの露出を少なくしている。なお、53は枠51が取り付けられる躯体、54はクロス等の仕上げ材、55は戸当たりである。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開2008-38419号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] しかしながら、図18に示すように、従来の見付け部51aを薄くした枠51において、ラッチ受け、ストライク、ヒンジ等の戸用器具56（図中破線で示す）が枠51の見付け部51aから左側（壁板52側）に突出する場合がある。この場合、戸用器具56が壁板52に干渉する。

[0006] これを防止するために、図19に示すように、枠本体51bの見付け方向の幅を厚くして枠本体51bに戸用器具56を収容する懐を形成し、枠本体51bに壁板52を突き当てることが考えられる。しかし、衝撃や地震によ

って枠本体51bと壁板52がずれると、枠本体51bと壁板52の境界でクロス等の仕上げ材54が破れ易くなる。

[0007] 本発明は、上記の課題を鑑みてなされたものであり、見付け部が薄い枠に壁を容易に施工できるようにする見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0008] 上記課題を解決するために、本発明の一態様は、枠の見付け部に沿って配置される見付けスペーサであって、前記枠が取り付けられる躯体に取り付けられる本体部と、前記本体部から前記枠の前記見付け部まで延びる延設部と、を備え、前記延設部の後面側には、切欠きが形成される見付けスペーサである。

[0009] 本発明の他の態様は、前記見付けスペーサの配置構造であって、前記枠に取り付けられる戸用器具が前記見付け部から見付け方向外側に突出し、又は前記枠が、前記見付け部よりも見付け方向の幅が厚くて戸用器具が収容される枠本体を有することを特徴とする見付けスペーサの配置構造である。

発明の効果

[0010] 本発明によれば、見付けスペーサを利用することで、見付け部が薄い枠に壁を容易に施工できる。

図面の簡単な説明

[0011] [図1]本発明の第1の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の正面図である。

[図2]図1のII-II線断面図である。

[図3]柱、縦枠、ラッチ受けの斜視図である（図3（a）は戸体側から見た斜視図、図3（b）は壁側から見た斜視図）。

[図4]見付けスペーサの斜視図である。

[図5]見付けスペーサを利用した壁の施工方法の工程図である。

[図6]見付けスペーサを利用した壁の施工方法の工程図である。

[図7]見付けスペーサの他の例を示す図である。

[図8]見付けスペーサの他の例を示す図である。

[図9]本発明の第2の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の斜視図である。

[図10]本発明の第2の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の水平断面図である。

[図11]本発明の第3の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の斜視図である。

[図12]本発明の第3の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の垂直断面図である。

[図13]本発明の第4の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の斜視図である。

[図14]本発明の第4の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の垂直断面図である。

[図15]本発明の第5の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具の戸体に沿った断面図である。

[図16]図15のXVI-XVI線断面図（水平断面図）である。

[図17]図15のXVII-XVII線断面図（垂直断面図）である。

[図18]建具の水平断面図である。

[図19]建具の水平断面図である。

発明を実施するための形態

[0012] 以下、添付図面に基づいて、本発明の実施形態の見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造を詳細に説明する。ただし、本発明の見付けスペーサ及び見付けスペーサの配置構造は種々の形態で具体化することができ、本明細書に記載される実施形態に限定されるものではない。本実施形態は、明細書の開示を十分にすることによって、当業者が発明を十分に理解できるようにする意図をもって提供されるものである。

（第1の実施形態）

[0013] 図1は、本発明の第1の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した

建具 1 の正面図を示す。図 2 は、図 1 の II-II 線断面図を示す。建具 1 は、枠 2 と、戸体 3 と、を備える。戸体 3 は、枠 2 と床面 10 に囲まれる。なお、本明細書において、建物の開口部を正面視したときの方向、すなわち図 2 の前後、左右、上下の各方向を用いて、建具 1 の構成を説明する。また、図 2 の見込み方向は前後方向を意味し、見付け方向は左右方向を意味する。

[0014] 図 2 に示すように、躯体は、上下方向に延び、互いに離間する左右一対の柱 4 a, 4 b と、一対の柱 4 a, 4 b の上端部同士に連結される梁（図示せず）と、を備える。一対の柱 4 a, 4 b と梁によって、開口部 O が形成される。躯体の開口部 O には、枠 2 が取り付けられる。なお、壁式構造の場合、躯体としての壁に開口部 O が形成されてもよい。

[0015] 壁は、開口部 O の周囲に配置される壁板としての壁パネル 6 a, 6 b を含む。壁パネル 6 a, 6 b は、例えば石膏ボードである。壁パネル 6 a, 6 b は、柱 4 a, 4 b の前面と後面それぞれに取り付けられる。壁パネル 6 a, 6 b には、クロス等の仕上げ材 7 a, 7 b が貼られる。

[0016] 枠 2 は、左右一対の縦枠 2 a, 2 b と、一対の縦枠 2 a, 2 b の上端部に取り付けられる上枠 2 c（図 1 参照）と、を備える。縦枠 2 a, 2 b と上枠 2 c には、戸当たり 8 が取り付けられる。

[0017] 縦枠 2 a は、柱 4 a に取り付けられる。縦枠 2 a は、見付け方向の幅が厚い枠本体 11 と、枠本体 11 よりも見付け方向の幅が薄い見込み方向の両端部の見付け部 12 a, 12 b と、を備える。枠本体 11 は、柱 4 a に栈木 15 を介して取り付けられる。枠本体 11 には、戸当たり 8 を取り付けるための溝 11 a が形成される。見付け部 12 a の見付け面は壁パネル 6 a よりも見込み方向の前側に突出し、又は見付け部 12 a の見付け面は仕上げ材 7 a の前面と実質的に同一平面にある。見付け部 12 b は、壁パネル 6 b よりも見込み方向の後ろ側に突出する。枠本体 11 の見付け方向の内側面（見込み面）と見付け部 12 a, 12 b の見付け方向の内側面（見込み面）とは実質的に同一の平面にある。枠本体 11 の見付け方向の外側面と見付け部 12 a, 12 b の見付け方向の外側面との間には、段差が形成される。

- [0018] 縦枠 2 a と縦枠 2 b は、左右対称である。縦枠 2 b には、ヒンジとしての隠し蝶番 9 を介して戸体 3 が開閉可能に取り付けられる。閉じ状態の戸体 3 の前面は、見付け部 1 2 a の前面（見付け面）と実質的に同一の平面にあるか、見付け部 1 2 a の見付け面よりも僅かに後方に位置する。
- [0019] 戸体 3 の戸先側には、ラッチボルト 1 3 が設けられる。ラッチボルト 1 3 は、戸体 3 に設けた図示しないハンドルやドアノブを操作することで、戸体 3 の戸先側の端面から出沒する。縦枠 2 a には、ラッチボルト 1 3 に係合するラッチ受け 1 4 が取り付けられる。
- [0020] 図 3 は、柱 4 a、縦枠 2 a、戸用器具としてのラッチ受け 1 4 の斜視図を示す。図 3 (a) は戸体 3 側から見た斜視図を示し、図 3 (b) は壁パネル 6 a 側から見た斜視図を示す。ラッチ受け 1 4 には、ラッチボルト 1 3 が係合する凹部 1 4 a が形成される。戸体 3 を閉じると、ラッチボルト 1 3 がラッチ受け 1 4 の表面を摺動し、ばねの力によってラッチ受け 1 4 の凹部 1 4 a に入り、凹部 1 4 a に係合する。
- [0021] 図 3 (b) に示すように、ラッチ受け 1 4 は、見付け部 1 2 a から見付け方向外側（壁パネル 6 a 側）に突出する。従来工法のように壁パネル 6 a を見付け部 1 2 a に突き当てると、壁パネル 6 a とラッチ受け 1 4 とが干渉してしまう。これを防止するために、見付けスペーサ 2 1（図 2 参照）が設けられる。
- [0022] 図 2 に示すように、見付けスペーサ 2 1 は、縦枠 2 a の見付け部 1 2 a に沿って配置される。見付けスペーサ 2 1 は、躯体としての柱 4 a に取り付けられる本体部 2 1 a と、本体部 2 1 a から見付け部 1 2 a まで延びる延設部 2 1 b と、を備える。延設部 2 1 b の後面側には、切欠き 1 6 が形成される。切欠き 1 6 は、枠 2（縦枠 2 a）に取り付けられる戸用器具（ラッチ受け 1 4）又は見付け部 1 2 a よりも見付け方向の幅が厚い枠本体 1 1 との干渉を避けられるように形成される。本体部 2 1 a の見込み方向の厚さは、壁パネル 6 a の見込み方向の厚さと実質的に同一である。延設部 2 1 b の見込み方向の厚さは、本体部 2 1 a の見込み方向の厚さよりも薄い。本体部 2 1 a

の前面（見付け面）と延設部 2 1 b の前面（見付け面）は実質的に同一平面にある。

[0023] 図 4 は、見付けスペーサ 2 1 の斜視図を示す。見付けスペーサ 2 1 は、縦枠 2 a の見付け部 1 2 a に沿って上下方向に延びる。本体部 2 1 a は、断面四角形の中空構造に形成される。本体部 2 1 a には、柱 4 a に螺合するねじ等の締結部材の通し穴 2 1 a 1 が形成される。延設部 2 1 b は、板状に形成される。延設部 2 1 b は、本体部 2 1 a と一体に形成される。本体部 2 1 a と延設部 2 1 b は、アルミ等の金属製で例えば押出し成型により製造される。見付けスペーサ 2 1 の断面形状は、長手方向に実質的に一定である。

[0024] 見付けスペーサ 2 1 を利用した壁の施工方法を説明する。図 5 (a) に示すように、柱 4 a に縦枠 2 a を取り付ける。次に、図 5 (b) に示すように、見付けスペーサ 2 1 を縦枠 2 a の見付け部 1 2 a に突き当てた状態で、ねじ等の締結部材によって柱 4 a に見付けスペーサ 2 1 を締結する。見付けスペーサ 2 1 の延設部 2 1 b の後面側には、切欠き 1 6 が形成されているので、見付けスペーサ 2 1 とラッチ受け 1 4 が干渉することはない。

[0025] 次に、図 6 (a) に示すように、壁パネル 6 a を見付けスペーサ 2 1 に突き当てた状態で、ねじ等の締結部材によって壁パネル 6 a を柱 4 a に締結する。次に、一般的なパテ処理等をし、図 6 (b) に示すように、壁パネル 6 a と見付けスペーサ 2 1 にクロス壁等の仕上げ材 7 a を貼る。壁パネル 6 a と見付けスペーサ 2 1 はいずれも柱 4 a の見付け面に取り付けられるので、地震や衝撃が発生しても、壁パネル 6 a と見付けスペーサ 2 1 との境界で仕上げ材 7 a が破れにくくなる。ラッチ受け 1 4 を交換する際にも、見付けスペーサ 2 1 とラッチ受け 1 4 が干渉していないので、ラッチ受け 1 4 の交換も容易である。

[0026] 図 7 は、見付けスペーサの他の例 2 2 を示す。上記見付けスペーサ 2 1 では、本体部 2 1 a と延設部 2 1 b が一体に形成されるのに対して、この例の見付けスペーサ 2 2 では、本体部 2 2 a と延設部 2 2 b が別体に形成される。本体部 2 2 a は、断面四角形の中実構造に形成される。本体部 2 2 a は、金

属製、木製等である。延設部 2 2 b は、板状である。延設部 2 2 b の後面側には、縦枠 2 a に取り付けられるラッチ受け 1 4 との干渉を避けられるように切欠き 2 3 が形成される。延設部 2 2 b の材質は、特に限定されるものではないが、強度を確保するためにアルミ等の金属が望ましい。延設部 2 2 b は、本体部 2 2 a にねじ、接着等の結合手段によって結合される。本体部 2 2 a と延設部 2 2 b には、ねじ等の締結部材の通し穴 2 2 a 1 が形成される。

[0027] 図 8 は、見付けスペーサのさらに他の例 2 4 を示す。上記見付けスペーサ 2 1 では、切欠き 1 6 が見付けスペーサ 2 1 の長さ方向の全長に形成されるのに対し、この例の見付けスペーサ 2 4 では、見付けスペーサ 2 4 の長さ方向の一部に形成される。見付けスペーサ 2 4 は、柱 4 a に取り付けられる本体部 2 4 a と、本体部 2 4 a から見付け部に向かって延びる延設部 2 4 b と、を備える。延設部 2 4 b の後面側には、縦枠 2 a に取り付けられるラッチ受け 1 4 との干渉を避けられるように切欠き 2 5 が形成される。見付けスペーサ 2 4 の材質は、特に限定されるものではなく、アルミ等の金属製、木製等である。見付けスペーサ 2 4 には、ねじ等の締結部材の通し穴 2 4 a 1 が形成される。

(第 2 の実施形態)

[0028] 図 9 は、本発明の第 2 の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具を示す。第 1 の実施形態では、戸用器具としてラッチ受け 1 4 を使用しているが、第 2 の実施形態では、戸用器具として隠し蝶番を使用している。柱 4 a、縦枠 2 a、壁パネル 6 a、仕上げ材 7 a の構成は、第 1 の実施形態と同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。

[0029] 縦枠 2 a と戸体 3 には、隠し蝶番 2 6 が取り付けられる。隠し蝶番 2 6 は、縦枠 2 a に埋め込まれる枠側本体 2 6 a と、戸体 3 の戸尻側端面に埋め込まれる戸体側本体 2 6 c と、枠側本体 2 6 a と戸体側本体 2 6 c に連結されるリンク機構 2 6 b と、を備える。隠し蝶番 2 6 の構成は公知であるので、これ以上の詳しい説明は省略する。

[0030] 図10に示すように、隠し蝶番26の枠側本体26aは、見付け部12aから見付け方向外側（壁パネル6a側）に突出する。見付けスペーサ21は、柱4aに取り付けられる本体部21aと、本体部21aから見付け部12aまで延びる延設部21bと、を備える。延設部21bの後面側には、隠し蝶番26の枠側本体26aとの干渉を避けられるように切欠き16が形成される。見付けスペーサ21の構成は、図4に示す見付けスペーサ21と同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。なお、図10には左開き用の戸体3が示されている。図2には右開き用の戸体3が示されている。図2では、縦枠2bの見付け部12aに沿って見付けスペーサ21を配置している。

（第3の実施形態）

[0031] 図11は、本発明の第3の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具31を示す。第2の実施形態では、戸用器具として隠し蝶番26を使用しているが、第3の実施形態では、戸用器具として戸体3に取り付けられるクローザ（図示せず）と上枠2cに取り付けられるトリガ32を使用している。クローザは、トリガ32を捕捉可能なアームを有する公知のものであり、戸体3が所定位置まで閉じると、クローザのアームがトリガ32を捕捉し、戸体3が閉じ位置まで自動的に閉じるように構成される。9は隠し蝶番である。

[0032] 図12に示すように、上枠2cは、梁4cに取り付けられる。トリガ32を支持するトリガ支持体33は、上枠2cの見付け部12aから見付け方向上側（壁パネル6a側）に突出する。見付けスペーサ21は、梁4cに取り付けられる本体部21aと、本体部21aから見付け部12aまで延びる延設部21bと、を備える。延設部21bの後面側には、トリガ支持体33との干渉を避けられるように切欠き16が形成される。見付けスペーサ21の構成は、図4に示す見付けスペーサ21と同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。なお、トリガ32を戸体3に取り付け、クローザを上枠2cに取り付けてもよい。

(第4の実施形態)

[0033] 図13は、本発明の第4の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具35を示す。第3の実施形態では、戸用器具としてクローザとトリガ32を使用しているが、第4の実施形態では、戸用器具としてコンシールドドアクローザ36とアーム37を使用している。コンシールドドアクローザ36とアーム37は公知のものである。コンシールドドアクローザ36は、上枠2cに埋め込まれる。アーム37は、その一端部がコンシールドドアクローザ36の駆動軸に固定されると共に、その他端部が戸体3の上端面にスライド可能にかつ回転可能に連結される。

[0034] 図14に示すように、コンシールドドアクローザ36は、見付け部12aから見付け方向上側（壁パネル6a側）に突出する。見付けスペーサ21は、梁4cに取り付けられる本体部21aと、本体部21aから見付け部12aまで延びる延設部21bと、を備える。延設部21bの後面側には、コンシールドドアクローザ36との干渉を避けられるように切欠き16が形成される。見付けスペーサ21の構成は、図4に示す見付けスペーサ21と同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。

(第5の実施形態)

[0035] 図15は、本発明の第5の実施形態の見付けスペーサの配置構造を適用した建具41の戸体に沿った断面図を示す。第1ないし第4の実施形態では、戸体3が開き戸であるが、第5の実施形態では、戸体3が引き戸である。梁4cには、上枠2cが取り付けられる。上枠2cには、戸体3の戸車42a、42bが走行するレール43が埋め込まれる。戸車42a、42b、レール43の構成は公知であるので、これ以上の詳しい説明は省略する。

[0036] 縦枠2aには、ストライカ44が取り付けられる。戸体3の戸先側には、錠本体45が取り付けられる。錠本体45には、サムターン46を回すことによって、戸体3の戸先面から出沒する鉤状の係合部材47が設けられる。係合部材47がストライカ44に係合すると、戸体3の施錠状態が保たれる。ストライカ44と錠本体45の構成は公知であるので、これ以上の詳しい

説明は省略する。

[0037] 図16に示すように、ストライカ44は、縦枠2aの見付け部12aから見付け方向外側（壁パネル6a側）に突出する。見付けスペーサ21は、柱4aに取り付けられる本体部21aと、本体部21aから見付け部12aまで延びる延設部21bと、を備える。延設部21bの後面側には、ストライカ44との干渉を避けられるように切欠き16が形成される。見付けスペーサ21の構成は、図4に示す見付けスペーサ21と同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。なお、45は幅木である。

[0038] 図17に示すように、上枠2cの枠本体11には、レール43が収容される懐が形成される。見付けスペーサ21は、梁4cに取り付けられる本体部21aと、本体部21aから見付け部12aまで延びる延設部21bと、を備える。延設部21bの後面側には、枠本体11との干渉を避けられるように切欠き16が形成される。見付けスペーサ21の構成は、図4に示す見付けスペーサ21と略同一であるので、同一の符号を附してその説明を省略する。

[0039] 本明細書は、2021年6月21日出願の特願2021-102128に基づく。この内容はすべてここに含めておく。

符号の説明

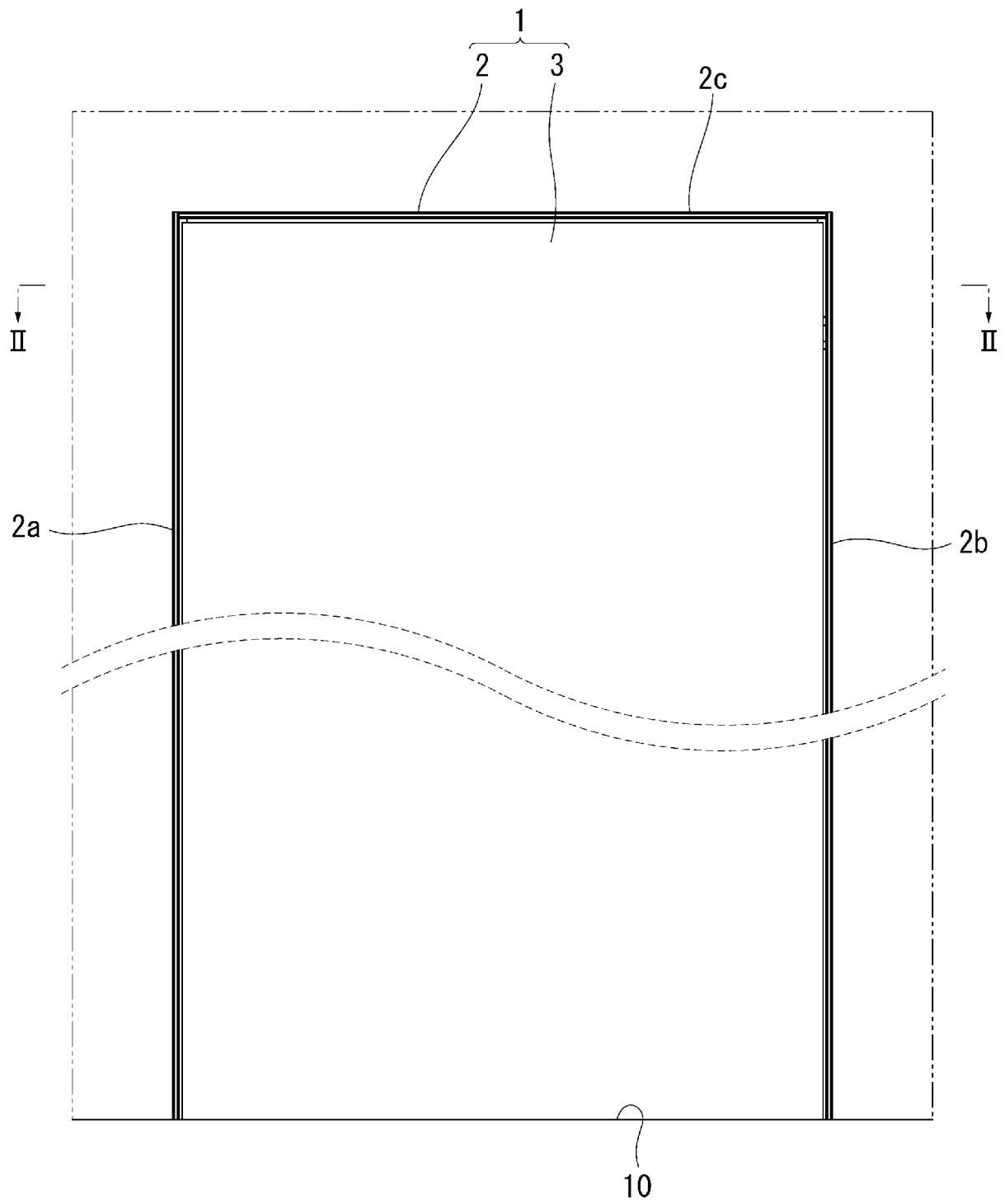
- [0040] 1…建具
2…枠
2a, 2b…縦枠（枠）
2c…上枠（枠）
3…戸体
4a, 4b…柱（躯体）
4c…梁（躯体）
6a…壁パネル（壁板）
7a…仕上げ材
11…枠本体

- 1 2 a …見付け部
- 1 4 …ラッチ受け（戸用器具）
- 1 6 …切欠き
- 2 1 …見付けスペーサ
- 2 1 a …本体部
- 2 1 b …延設部
- 2 2 …見付スペーサ
- 2 2 a …本体部
- 2 2 b …延設部
- 2 3 …切欠き
- 2 4 …見付けスペーサ
- 2 4 a …本体部
- 2 4 b …延設部
- 2 5 …切欠き
- 2 6 a …隠し蝶番の枠側本体（戸用器具）
- 3 1 …建具
- 3 3 …トリガ支持体（戸用器具）
- 3 5 …建具
- 3 6 …コンシールドドアクローザ（戸用器具）
- 4 1 …建具
- 4 3 …レール（戸用器具）
- 4 4 …ストライカ（戸用器具）

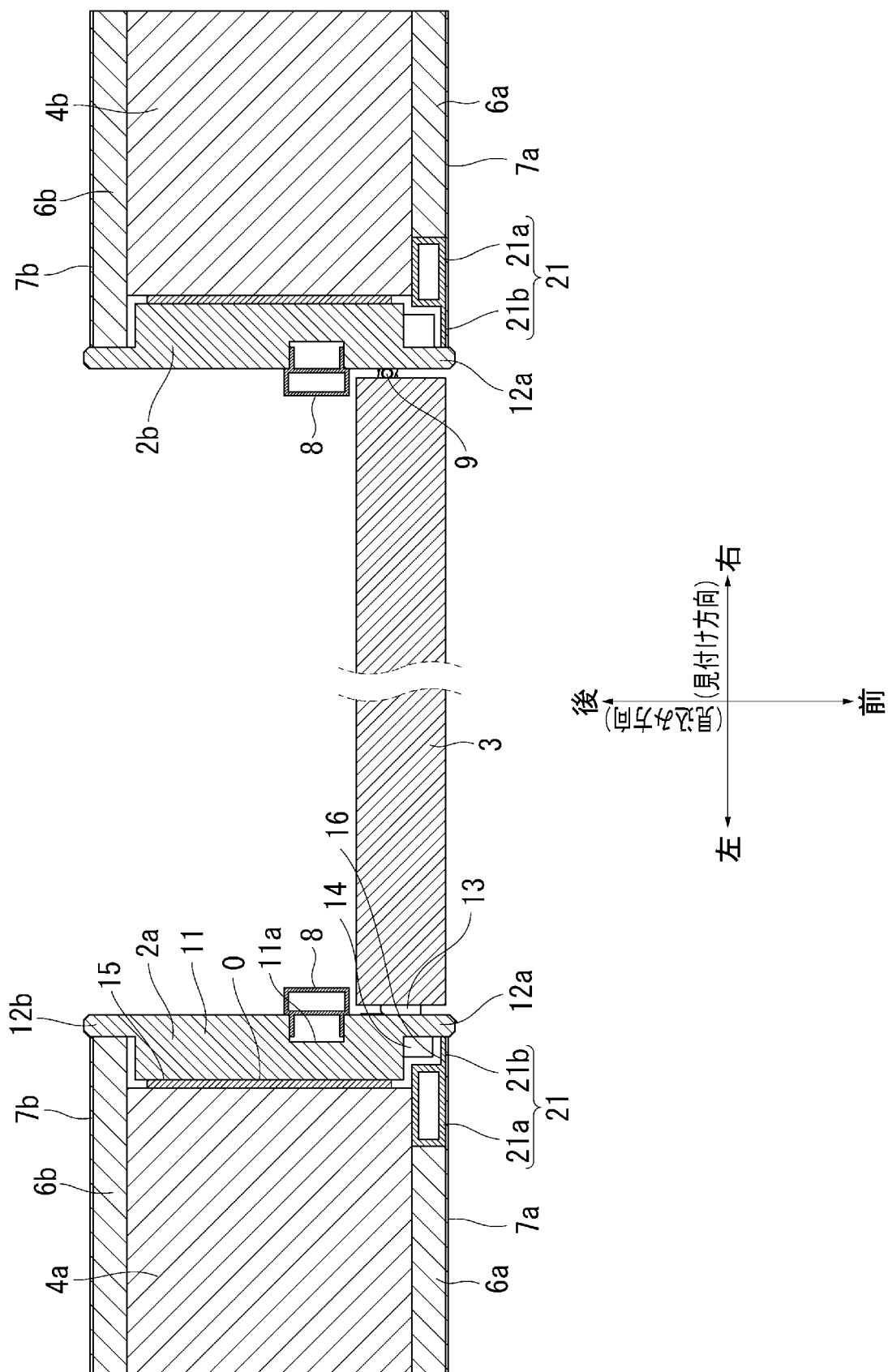
請求の範囲

- [請求項1] 枠の見付け部に沿って配置される見付けスペーサであって、前記枠が取り付けられる躯体に取り付けられる本体部と、前記本体部から前記枠の前記見付け部まで延びる延設部と、を備え、
- 前記延設部の後面側には、切欠きが形成される見付けスペーサ。
- [請求項2] 前記見付けスペーサは、前記見付け部と壁板との間に配置されることを特徴とする請求項1に記載の見付けスペーサ。
- [請求項3] 前記見付けスペーサの見込み方向の厚さは、前記壁板の見込み方向の厚さと実質的に同一であることを特徴とする請求項2に記載の見付けスペーサ。
- [請求項4] 前記本体部と前記延設部が一体に形成されることを特徴とする請求項1ないし3のいずれか一項に記載の見付けスペーサ。
- [請求項5] 前記見付けスペーサの長さ方向の全長に渡って前記切欠きが形成され、又は前記見付けスペーサの長さ方向の一部に前記切欠きが形成されることを特徴とする請求項1ないし4のいずれか一項に記載の見付けスペーサ。
- [請求項6] 請求項1ないし5のいずれか一項に記載の見付けスペーサの配置構造であって、
- 前記枠に取り付けられる戸用器具が前記見付け部から見付け方向外側に突出し、又は前記枠が、前記見付け部よりも見付け方向の幅が厚くて戸用器具が収容される枠本体を有することを特徴とする見付けスペーサの配置構造。

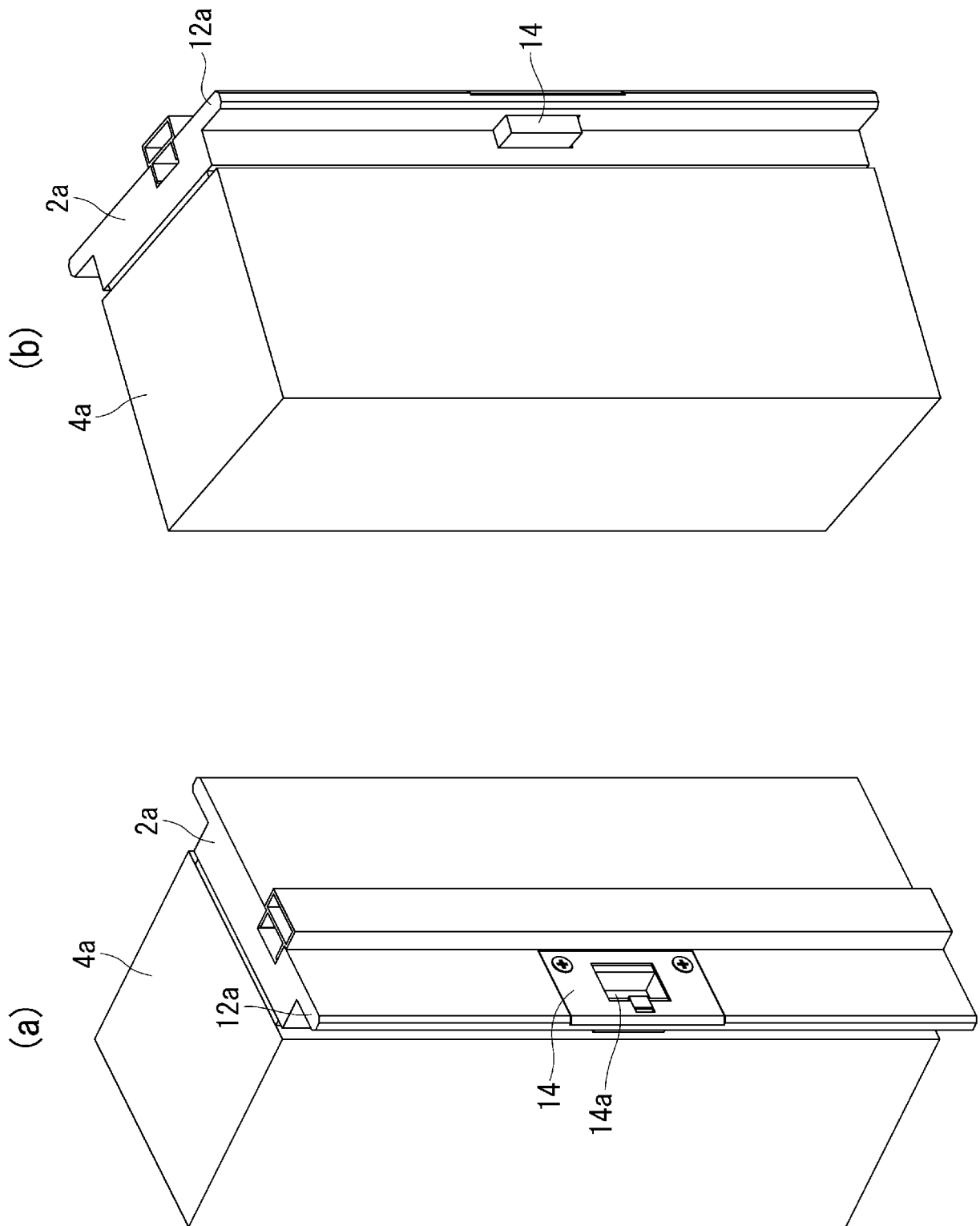
[図1]



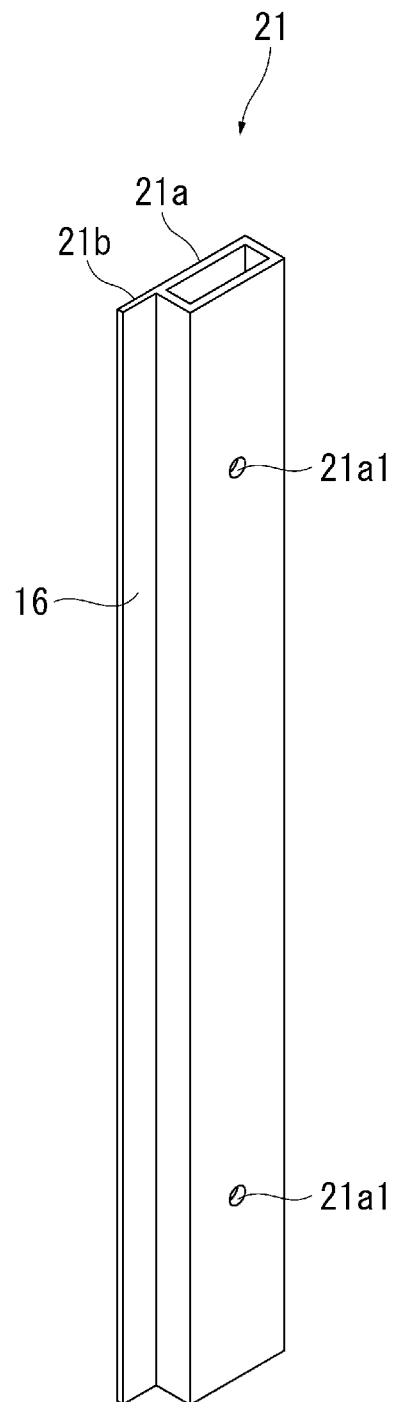
[図2]



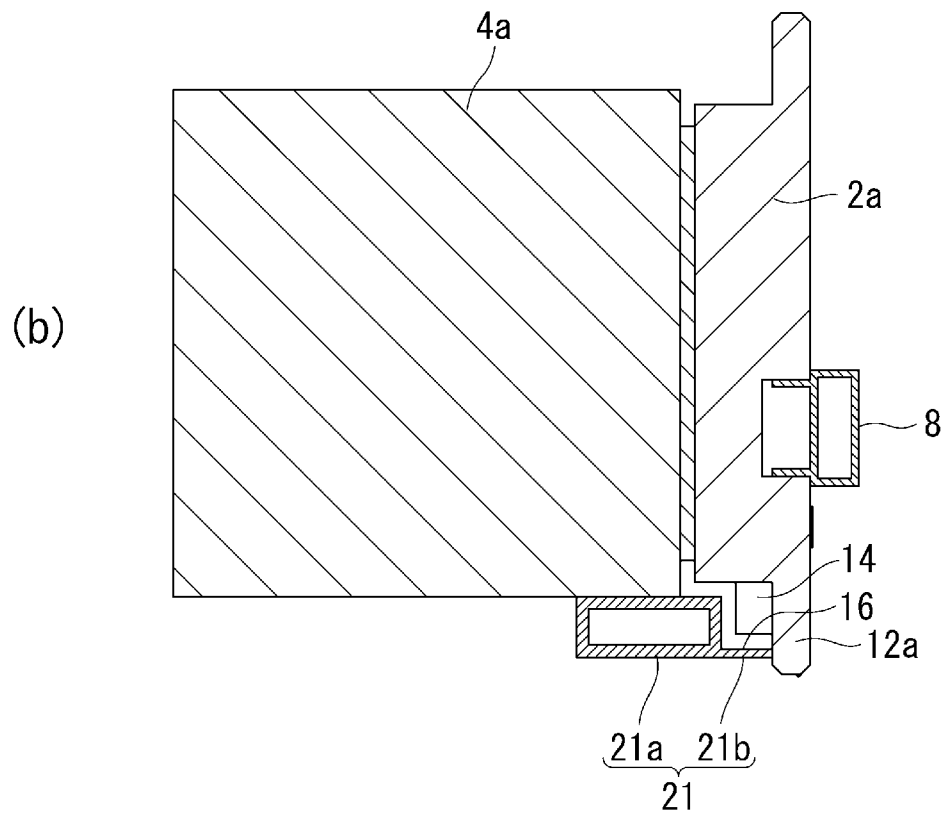
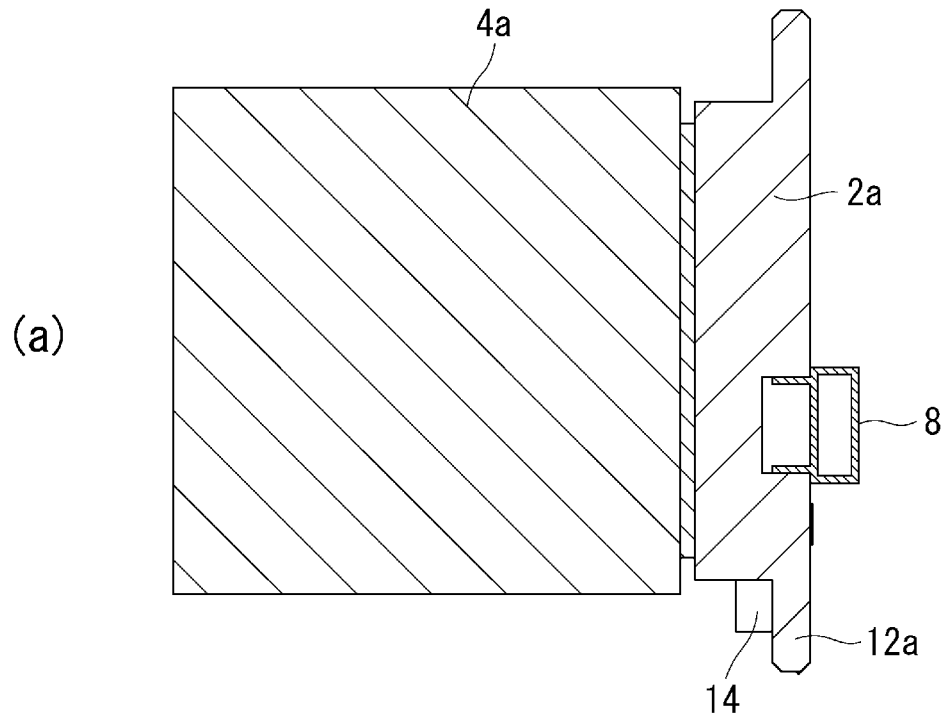
[図3]



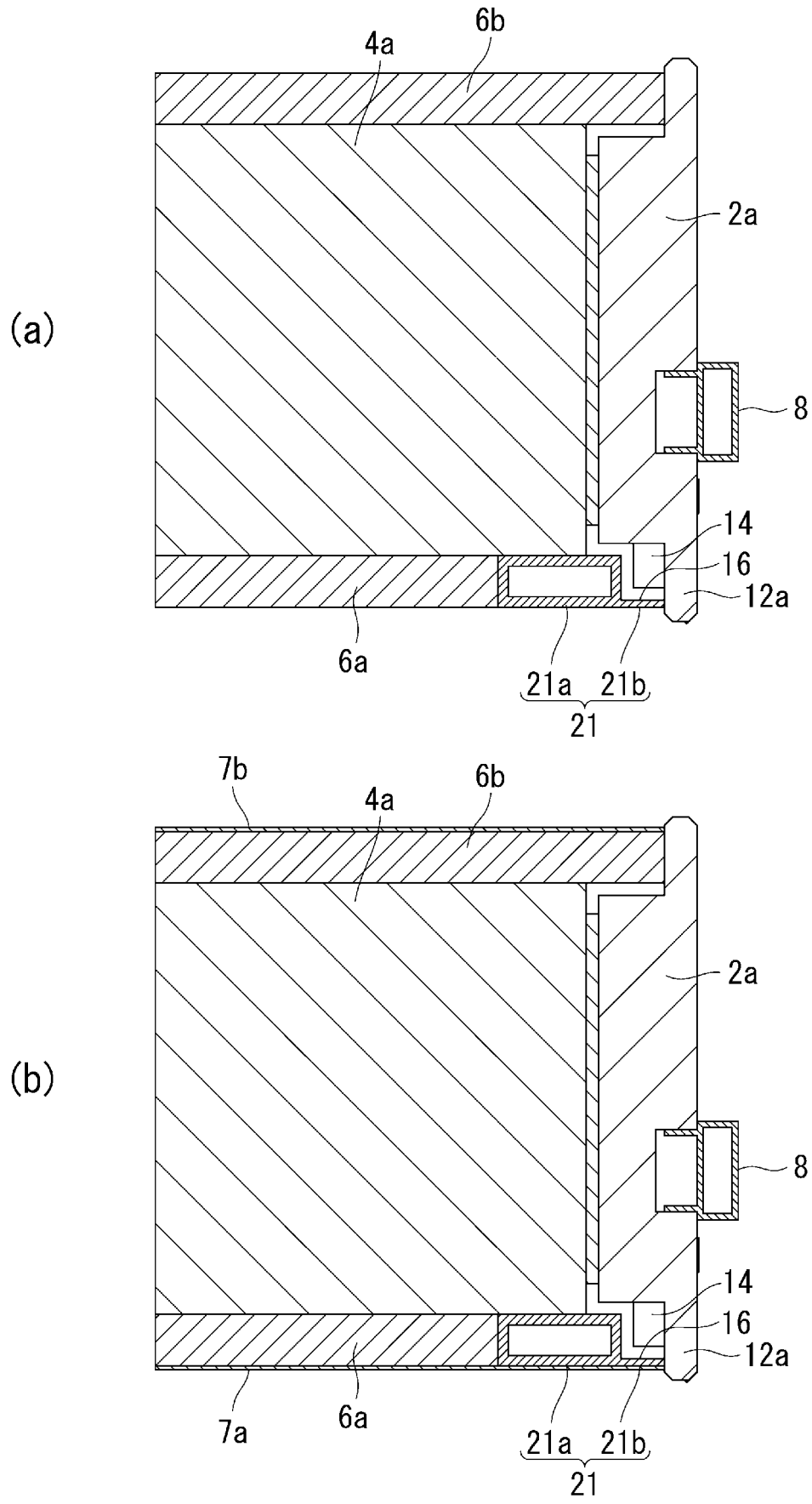
[図4]



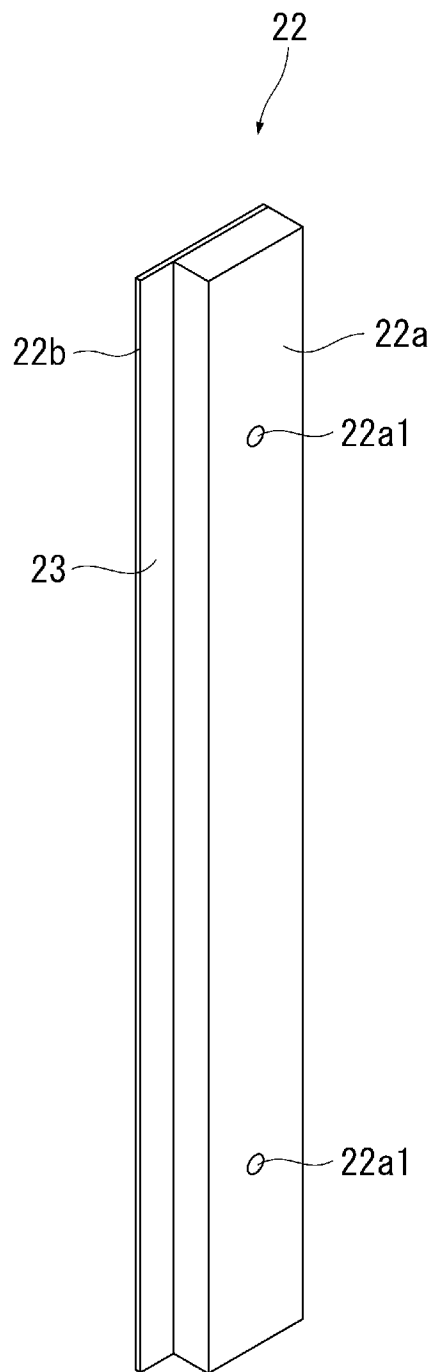
[図5]



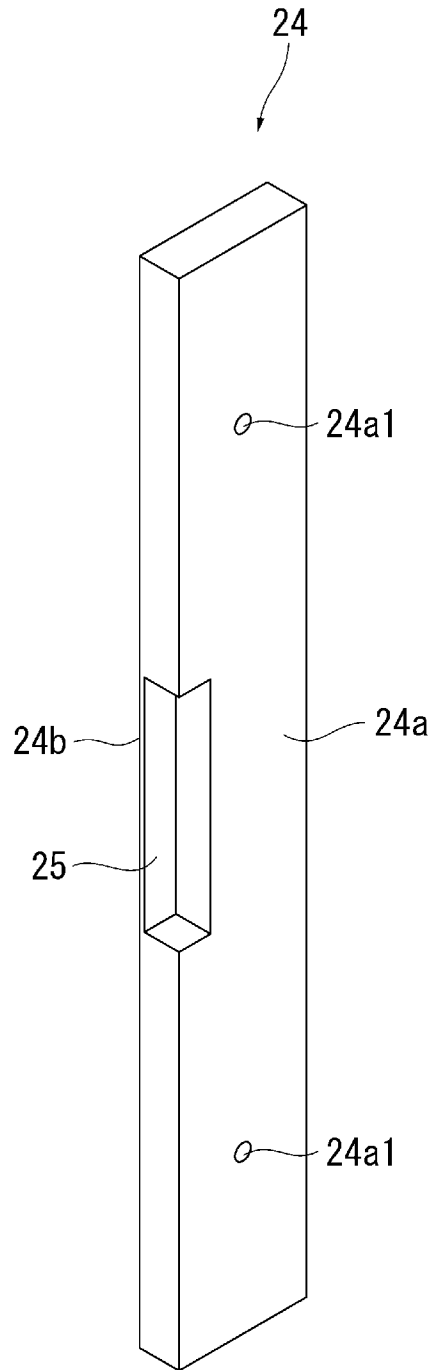
[図6]



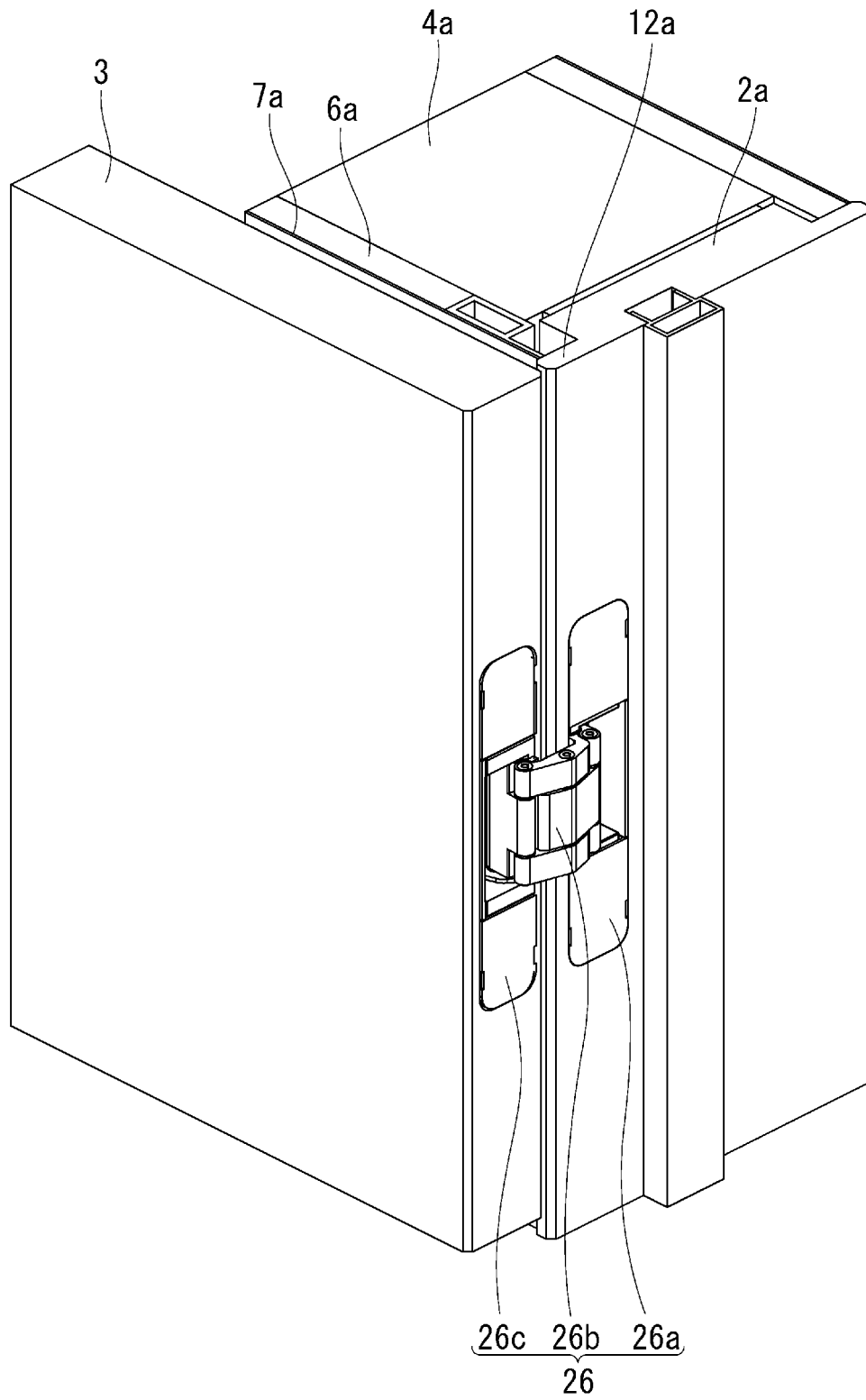
[図7]



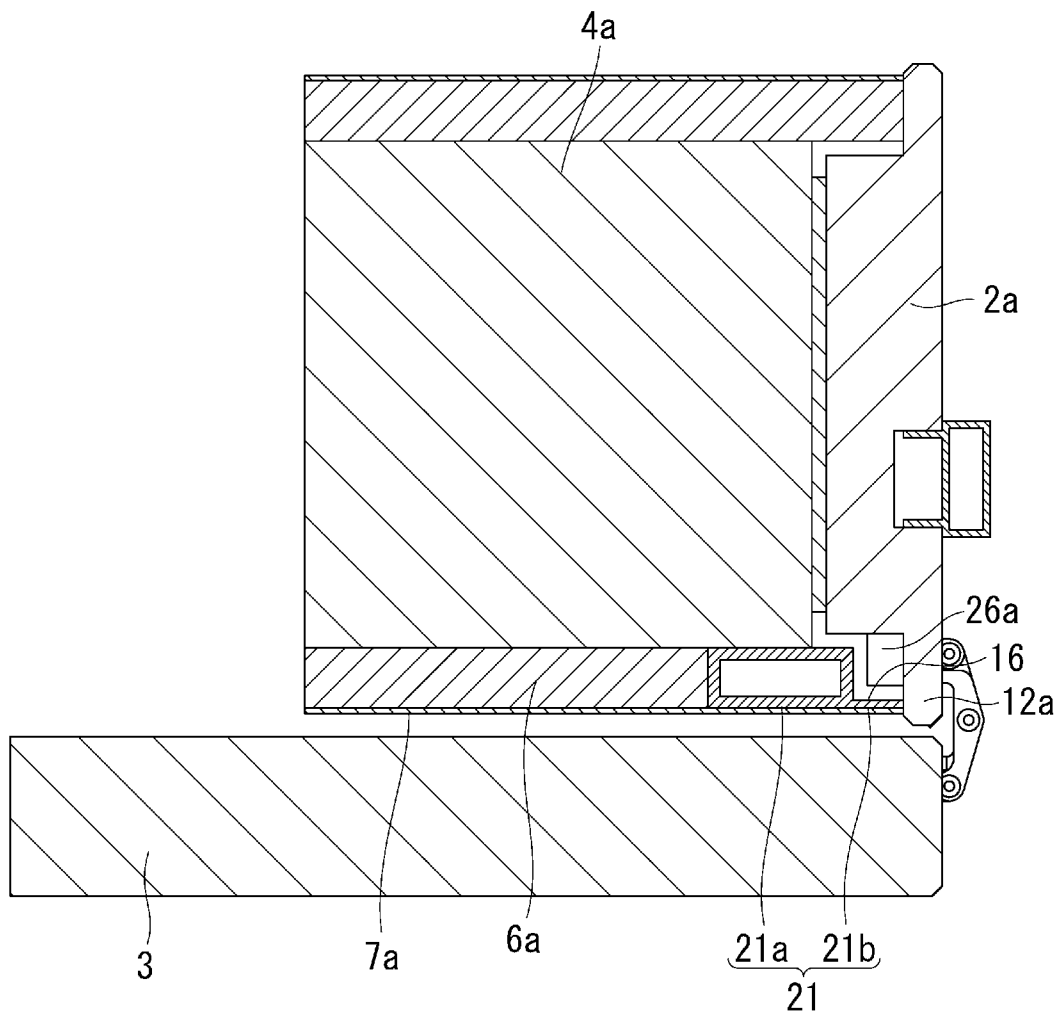
[図8]



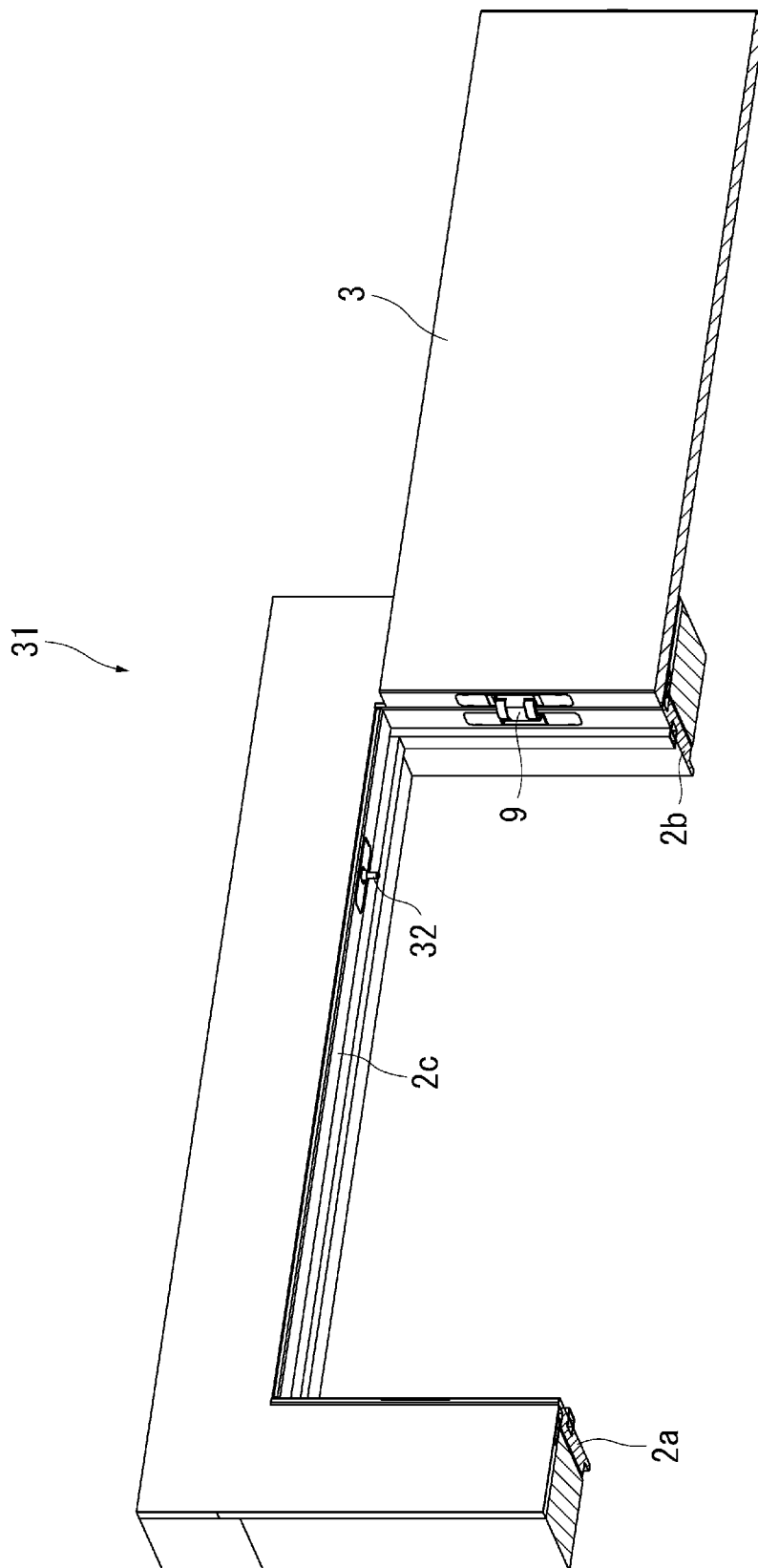
[図9]



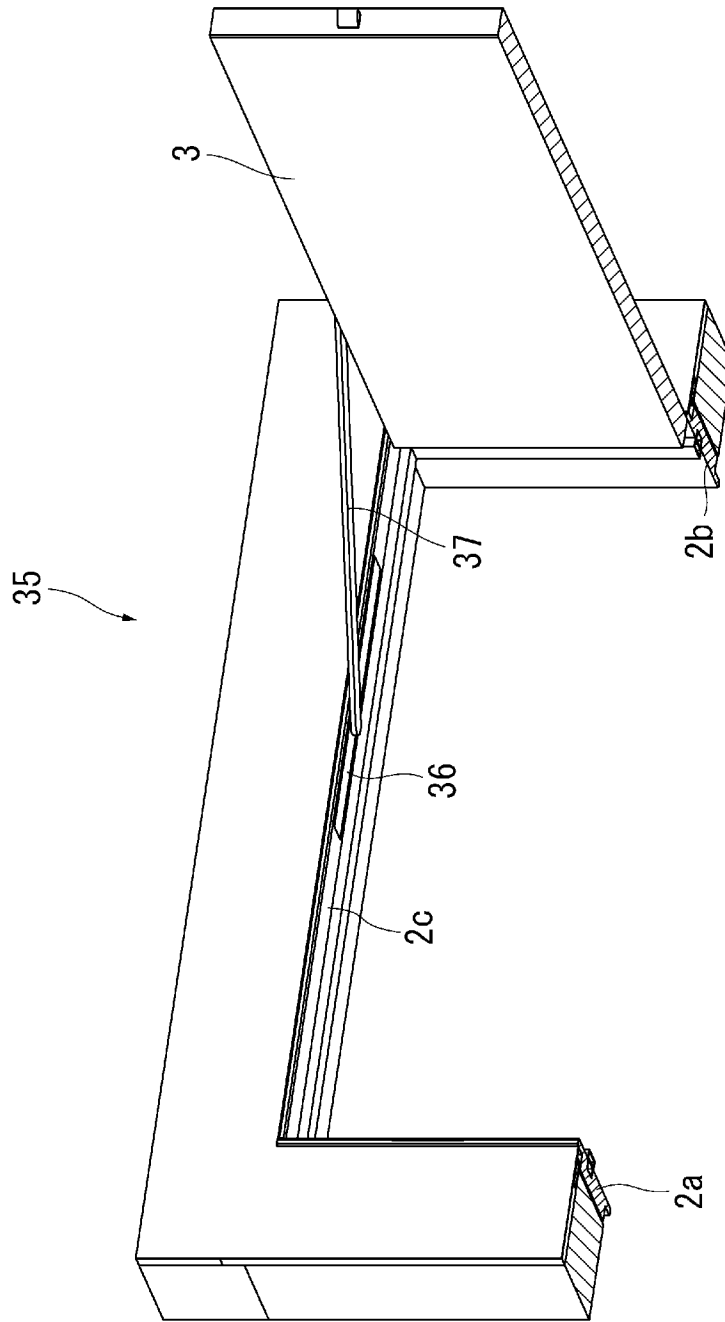
[図10]



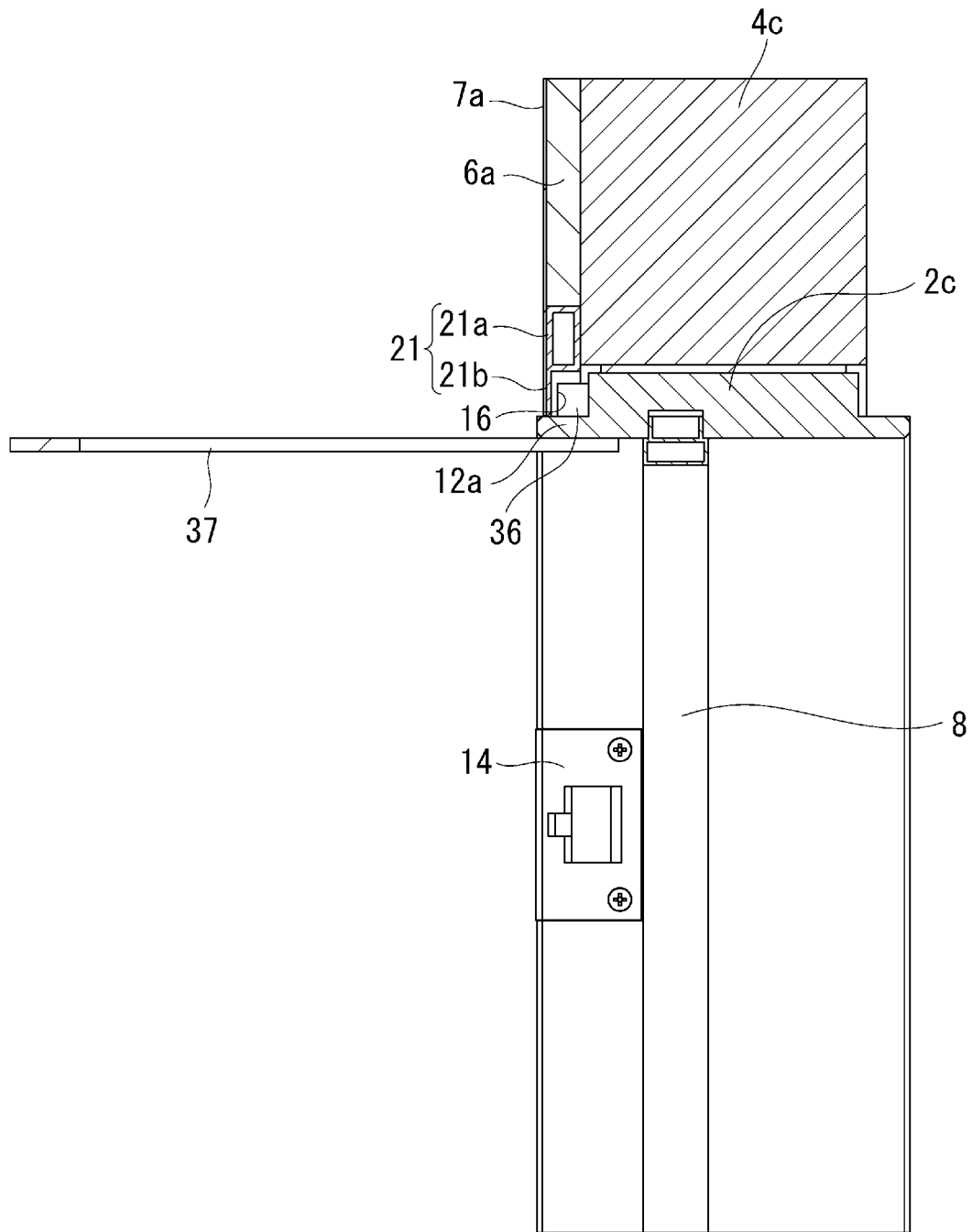
[図11]



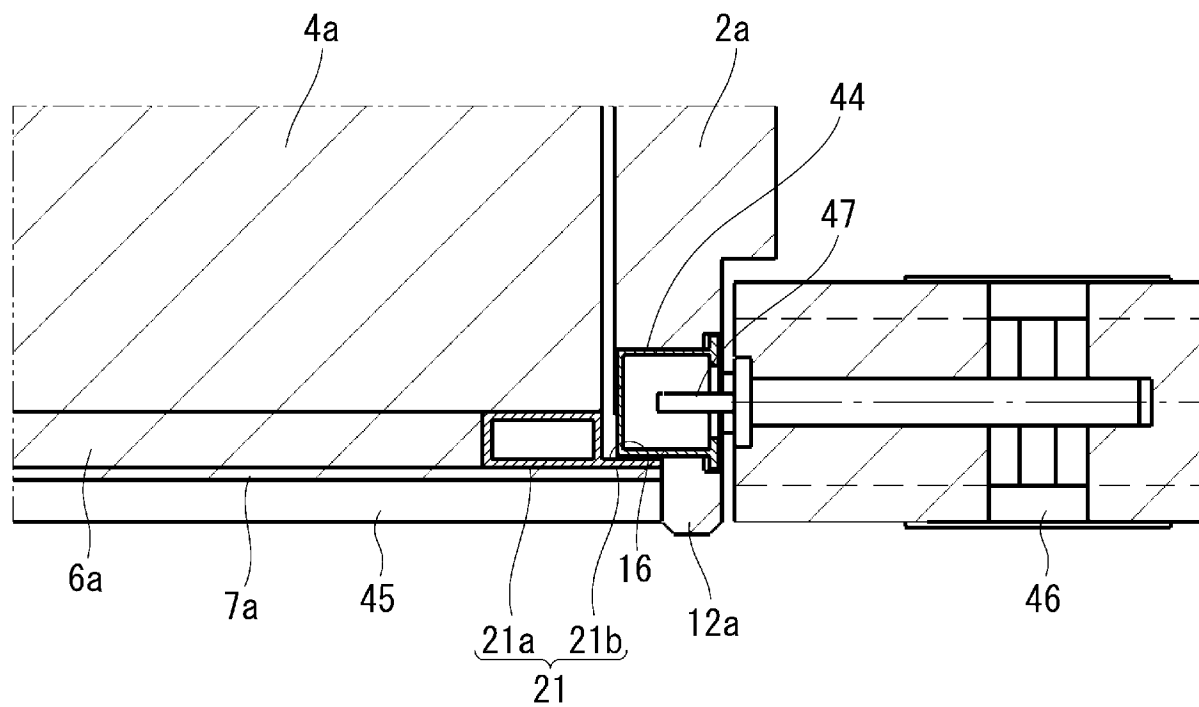
[図13]



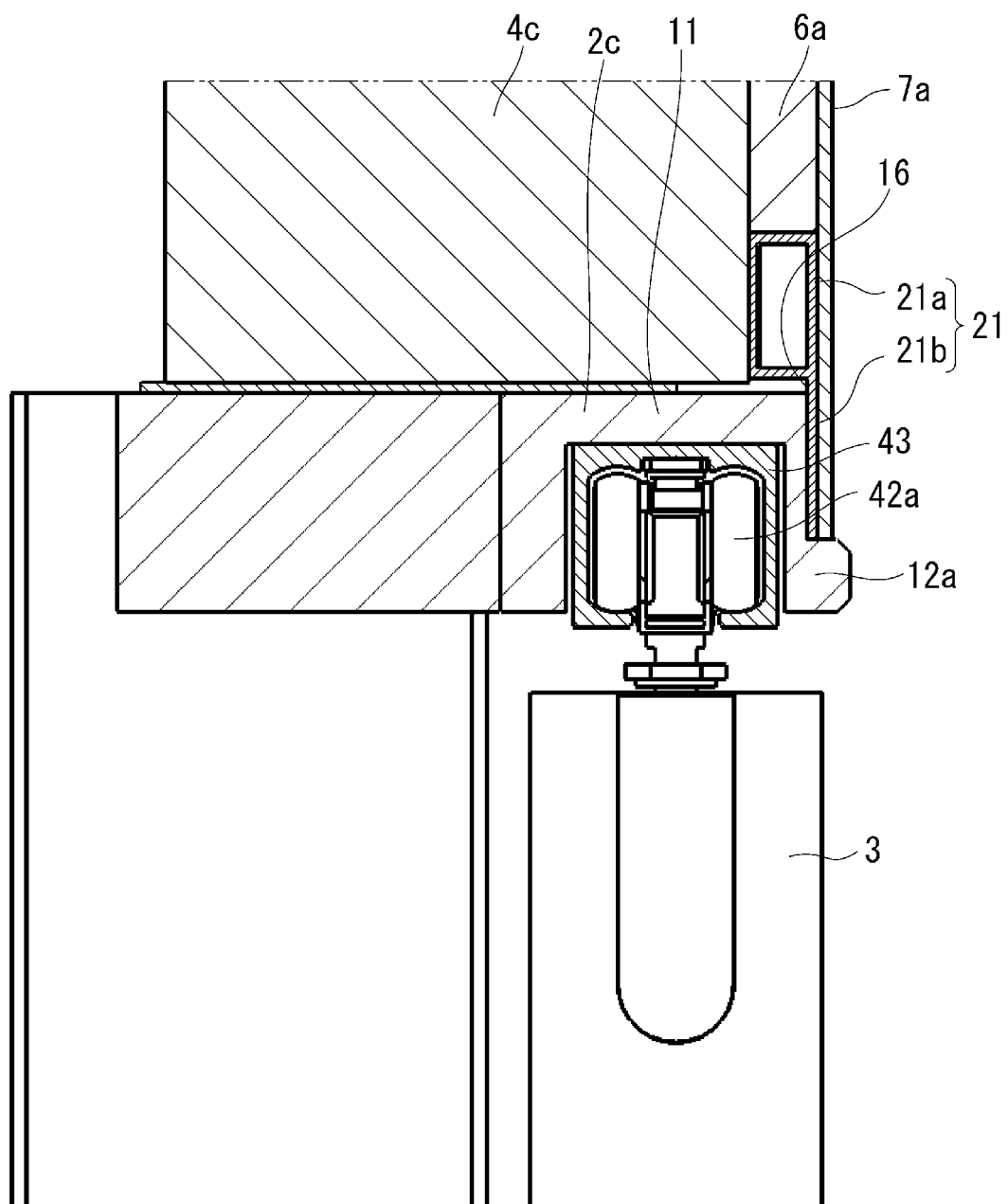
[図14]



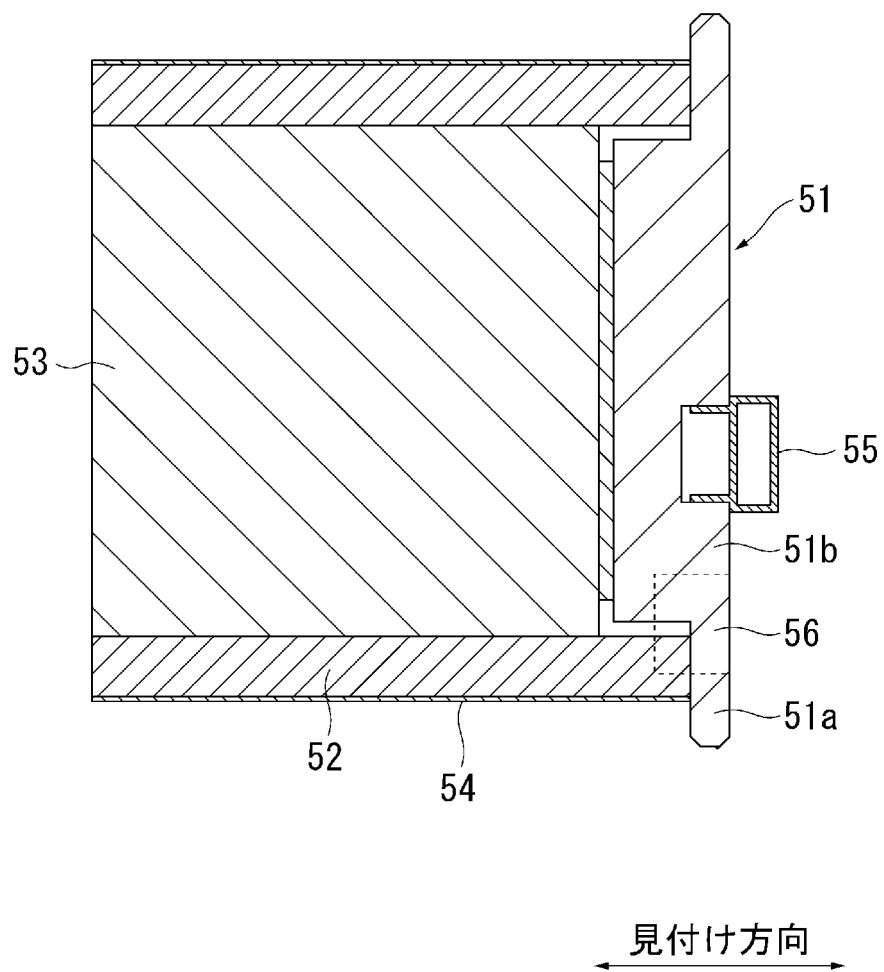
[図16]



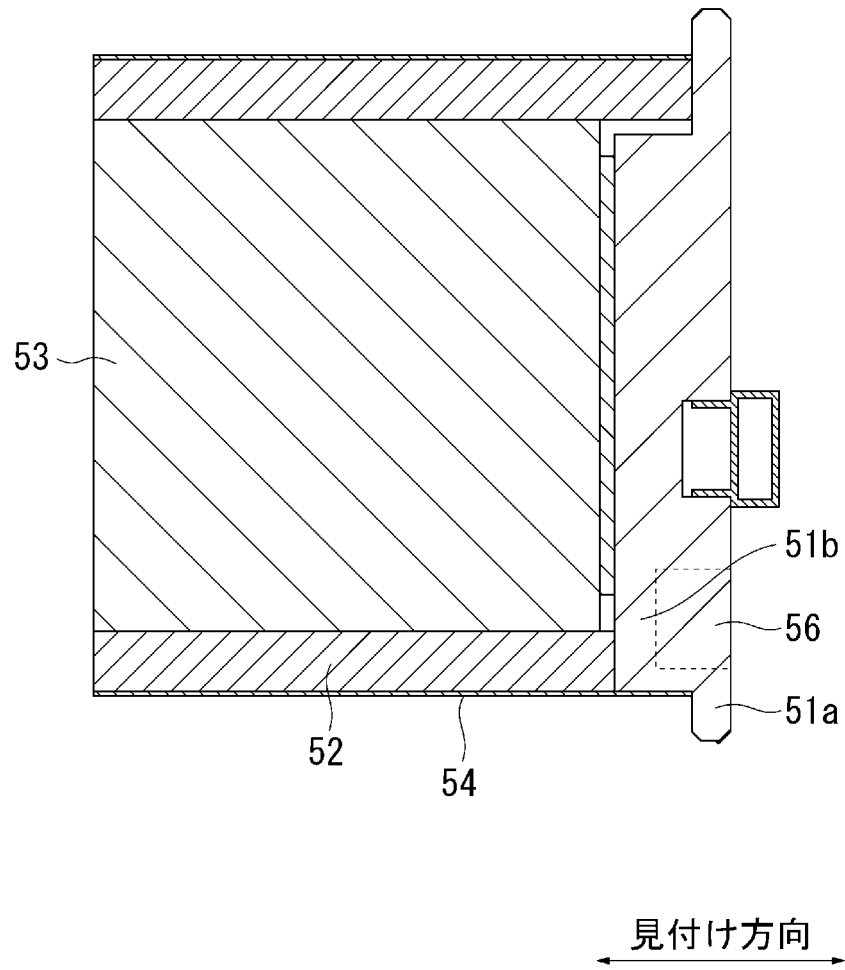
[図17]



[図18]



[図19]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2022/010474

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER		
<i>E06B 1/56</i> (2006.01)i; <i>E06B 1/62</i> (2006.01)i FI: E06B1/62 Z; E06B1/56 Z		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) E06B1/56; E06B1/62		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022 Registered utility model specifications of Japan 1996-2022 Published registered utility model applications of Japan 1994-2022		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP 2016-61069 A (YKK ARCHITECTURAL) 25 April 2016 (2016-04-25) paragraphs [0029], [0040], [0047], fig. 3, 13 entire text, all drawings	1, 4-5 2-3, 6
A	JP 2009-221723 A (KUBOTA MATSUSHITADENKO EXTERIOR WORKS LTD) 01 October 2009 (2009-10-01) entire text, all drawings	1-6
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 030279/1974 (Laid-open No. 119436/1975) (NATIONAL HOUSING MATERIALS CO., LTD.) 30 September 1975 (1975-09-30), entire text, all drawings	1-6
<input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 29 March 2022		Date of mailing of the international search report 12 April 2022
Name and mailing address of the ISA/JP Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan		Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2022/010474

Patent document cited in search report	Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP 2016-61069 A	25 April 2016	(Family: none)	
JP 2009-221723 A	01 October 2009	(Family: none)	
JP 50-119436 U1	30 September 1975	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） E06B 1/56(2006.01)i; E06B 1/62(2006.01)i FI: E06B1/62 Z; E06B1/56 Z		
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） E06B1/56; E06B1/62 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2022年 日本国実用新案登録公報 1996-2022年 日本国登録実用新案公報 1994-2022年		
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X A	JP 2016-61069 A (YKK AP株式会社) 25.04.2016 (2016-04-25) [0029], [0040], [0047], 図3, 13 全文全図	1, 4-5 2-3, 6
A	JP 2009-221723 A (クボタ松下電工外装株式会社) 01.10.2009 (2009-10-01) 全文全図	1-6
A	日本国実用新案登録出願49-030279号(日本国実用新案登録出願公開50-119436号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (ナショナル住宅建材株式会社) 30.09.1975 (1975-09-30) 全文全図	1-6
<input type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input checked="" type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献	
国際調査を完了した日 29.03.2022	国際調査報告の発送日 12.04.2022	
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 野尻 悠平 2R 5554 電話番号 03-3581-1101 内線 3285	

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2022/010474

引用文献	公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP 2016-61069 A	25.04.2016	(ファミリーなし)	
JP 2009-221723 A	01.10.2009	(ファミリーなし)	
JP 50-119436 U1	30.09.1975	(ファミリーなし)	